

対話型オンライン保育合同研究会 保育施設基本情報フォーマット

園・施設名	社会福祉法人 善き牧者会 さゆりこども園
経営主体	社会福祉法人 善き牧者会
所在地	〒983-0837 宮城県仙台市宮城野区榎江1-2
定員	70名(1号認定5名・2号認定36名・3号認定29名) / クラス数 6組(0～5歳児)
理事長名	伊勢島 靖子
園長名	伊勢島 靖子
採用担当者	副園長 菅野 由美
電話番号	022-293-2653
保育理念 保育方針 保育目標	<p>保育理念：キリスト教的人間観を基盤として、子ども一人ひとりを大切に、家庭への子育て支援を念頭において、保護者との信頼関係を築き、地域に根ざしたこども園として、地域に奉仕することを目指す。</p> <p>保育方針：・授かったいのちの尊さを知り、いただいたいのちを十全に喜びをもって生きる力の基礎を培う ・家庭との信頼関係のうちに人的・物的環境を整え、子どもの最善の生活の場を造る</p> <p>保育目標：園児みんなが家族という意識を持ち、家庭的な温かい雰囲気のもと職員との愛着関係を基盤に心の安定を図ります。 1) 感謝の心をもてる子ども 2) 思いやりのある優しい子ども 3) 忍耐できるがまん強い子ども 4) 健康な子ども 5) 明るい心の子ども</p>
保育環境	<p>市街地にありながら、自然環境に恵まれている。園舎裏には榎江の森があり、また、法人敷地内には原っぱや車通りの心配がないお散歩道路もあり、自由に自然体験ができる。</p> <p>園舎は新築で新しく、気持ちが良いのと、ダイナミックに走り回ることのできる広い第1園庭、こじんまりとしているもの小さい子を中心にゆったりと遊ぶことのできる第2園庭があり、状況に応じて使い分けができる環境にある。</p>
ホームページURL	http://www.sayuri-h.com/ 
事前質問	《保育の質》についてのお考えをお聞かせください
	<p>幼児期は、子どもが「生きる力の基礎を培う」大切な時期です。それを理解し、実現することができる力を「保育の質」と考えています。子どもが何を今必要として、どんな方法が最善で、どのようなかわりをしたら良いのかを理解し実践する力。子どもを一人ひとりの人間として大事にし、個性に対応できる力。子どもが今何を感じて、どんなことが育っているかを理解できる力だと思います。</p>
	"「保育の質」の向上」のために取り組んでおられることについて、具体的にご紹介ください。
	<p>担当者研修、業務研修など保育に必要な知識や情報などを適切に学べる様、研修事業へは積極的に参加してもらうようにしています。また、日常の保育現場で、普段から保育について保育者同士が語り合い、対話をするように心がけています。お互いの考えを知ることにより、多様な考え方を学ぶと共に、その技術も学ぶことができる良い機会となっています。</p>
	学生の就活において「職員同士の"人間関係"」が重視されていることについて、お考えをお聞かせください。
	<p>保育は、保育者一人ひとりの技術がどんなに高くても、それをお互いに認め合い支え合うことができなければ実践していくことはできない生業です。チームワークで実践していくためには人間関係が良い事がその園のスキルを上げていく大きな要因であると考えています。</p>
	乳幼児期における「子どもと保育者の望ましい関係」についてのお考えをお聞かせください。 また、そのような関係を築く上で大切にしていること、実践していることを具体的にお教えください。
	<p>子どもにとって保育者は、安心して身をゆだねることができる存在でありたいと思っています。子どもたちが心身共に健やかに育つための環境として、保育者の存在は重要だからです。そこで保育者は、信頼関係を築いていけるよう、子どもたち自身の思いや考えを受け止め、尊重していくことを大切に保育を行っているつもりです。子どもたちが自分が認められ、安心してその場にいることができるようになる事からその関係性を作っていきます。</p>
生活習慣の自立に向けた援助や関わりで大切にしていることについて、簡単な事例を基にご紹介ください。	
<p>子どもたちの育ちにはそれぞれ個人差と家庭環境など、様々な背景があります。生活習慣の自立については標準的な知識を持ちながらも、一人ひとりが持つ個人差を念頭に入れながら関わっていく必要があります。例えば、1歳児におけるトイレトレーニングでは、クラスで一斉にスタートさせるのではなく、あくまで子ども一人ひとりの育ちを見ながら進めていきます。ひとりの子どもが順調に進めば、それを見て喜ぶ保育者の姿から「自分もやりたい」と影響を受ける子も出てきます。集団であるからこそその育ちであるともいえます。</p>	
学生へのメッセージ	<p>どのような園でも、「完璧」な園はありません。そこに動める職員が一丸となって、それぞれがめざす保育のあり方に向かって歩いていくことが貴重なのだと思います。これから現場に出られる皆さんには、「大変なこともあるけど、やっぱり保育はやめられない」というこの保育の世界の醍醐味をぜひ味わっていただきたいと思っています。期待しています！</p>